

北茨城にチームラボが！

teamLab: Hidden Traces of Rice Terraces

ゆうこくおんでんあと

夜の森のミュージアム「チームラボ 幽谷隠田跡」

チームラボの夜の森のミュージアム「チームラボ 幽谷隠田跡」が常設展示として、北茨城市の五浦に2024年9月30日(月)にオープンしました。

10月7日にプレスツアーが企画され、possi編集部も参加させていただき、チームラボの作品を初体験してきました。

ここは株式会社創輝が主催となるグランピング施設「五浦 幽谷隠田跡温泉」の宿泊エリアに隣接する森の中、広大な自然に包まれながら光のアーートを体験できる、今最も注目のエリアです。

レポート！

まるで森に隠された

秘密の棚田のようでした

チームラボ代表 猪子寿之さんは説明会で、きっかけについて当時を振り返り「3年前、創輝さんのご相談を受けて初めて五浦海岸の森に来たときは、草を刈りながら入っていききました。森の奥まで行くと葦に覆われた湿地帯があって、そこはまるで森に隠された秘密の棚田のようでした」と棚田跡に魅せられた経緯を話されました。さらに、「自然が自然のままアートになる」プロジェクト、「デジタルズドネーチャー」というプロジェクトにもつながると。「長く連続したものをそのまま使うことによって、そこで自然と人の営みが連続する長い長い時間に思いをはせながら、その場所を作品にしよう」と。棚田を覆う森そのものを作品空間に、ある種の「森のミュージアム」にしようと思いつきました。「ここでの体験が皆様にとって何かほんの少しでも意味があるような体験になれば」と来場を呼びかけました。



具象と抽象

Concrete and Abstract

人々が作品の中に入り、止まればしばらくすると、新たな線の集合が生まれて広がっていく。その線の集合によって、森は平面の層へと変わる。

チームラボ《具象と抽象》© チームラボ

幽谷隠田跡
動画レポート
(プレスツアーにて)



常設となる本展は、奥深い森に隠された谷の棚田跡を、森と一体となった作品空間にするものです。夕暮れと共に、夜の森がチームラボのアート空間へと変わります。森の中で次々と展開される作品は全部で11です。大木に囲まれた山道を最小限の明かりで照らしているため、自然の闇を感じながら、音楽と共にゆっくりと誘われていきます。最初の作品は《具象と抽象》。グリッドの無数の線に囲まれ、前を行く人のシルエットがのみ込まれていくような錯覚に、自然と自分の存在の境がなくなりします。

さらに進んでいくと、木々のあいだを筆の痕跡が悠々と走り抜けていきます。《連続する生命の軌跡》です。チームラボが設立以来書き続けている空間に書く「書」のことで、書の墨跡が持つ、深さや速さ、力の強さのようなものを、新たな解釈で空間に立体的に再構築し、チームラボの「超主観空間」の論理構造によって2次元化されているものです。書は平面と立体との間を行き来します。

森から五浦の海を見下ろすこの一角からは《海が立ち上がる時花が咲くー五浦の海》が見えてきます。海面に波が生まれたときに生命が開くように色づいた部分が立ち上がり、波が崩れると優しく海

連続する軌跡

Continuous Trajectories

闇から生まれ、闇に帰るが、次に連続し、幾重にも重なり、森と絡まり、森に溶け込んでいく。

チームラボ《連続する軌跡》
© チームラボ



の一部となって戻っていく。それが海の一部だったことに気が付く。できれば近くで波音を聴きながら体感したい作品です。タブノキの周りに人が憩います。人が木に近づくと、最も近い球体が強く輝き音色を響かせる。周辺の球体も次々に呼応し、光を輝かせ音色を響かせ連続していく。《タブノキに宿る呼応する宇宙》では、マザーツリーのように木と人との交流が楽しめる不思議な空間になっています。

《我々の中にある火花》、闇の奥から赤い球体のように見える無数の線が問いかけるものは？ 我々の世界は、我々の中にある。そして、この線群の球体を認識したならば、認識している世界は広がり、日常においてもいたる



ところでこの線群の球体を見ることになるだろう。認識している世界が変わると、見えている世界が変わっていく。見た人に委ねられた哲学的な領域を感じるアートです、ぜひゆっくりと体感ください。



我々の中にある火花

Cognitive Solidified Spark

森に浮かび上がる無数の線の集合による球体。細い光の線は、中心から放射状に無数に広がり、球体を形作る。光源は動かないが、無数の線はうごめき続ける。

チームラボ《我々の中にある火花》© チームラボ

タブノキに宿る呼応する宇宙

Resonating Universe in the Tabunoki Tree

様々な研究によれば、森は木と木が菌根菌のネットワークでつながりあい、互いを認識し、栄養を送り合っている。その共存、相互扶助の大きな役割を果たしている中心にあるのが、樹齢の長い大木である。森林生態学者のスザンヌ・シマードは、そのような大木をマザーツリーと呼んでいる。

チームラボ《タブノキに宿る呼応する宇宙》© チームラボ

海が立ち上がる時花が咲く-五浦の海

Flowers Bloom When the Waves Rise - Sea of Izura

海が力強く立ち上がり波が生まれた時、花が咲く。その波が海の一部に戻る束の間だけ、花が咲く。波が生命に見えるのは、生命とは、力強く立ち上がった波のようなものだからだ。それは、全て連続的につながった一つの大海から、一度もとぎれることなく連続的に立ち上がり続ける、奇跡的な現象なのだ。

「チームラボ 幽谷隠田跡」会場にて撮影、チームラボ《海が立ち上がる時花が咲く-五浦の海》

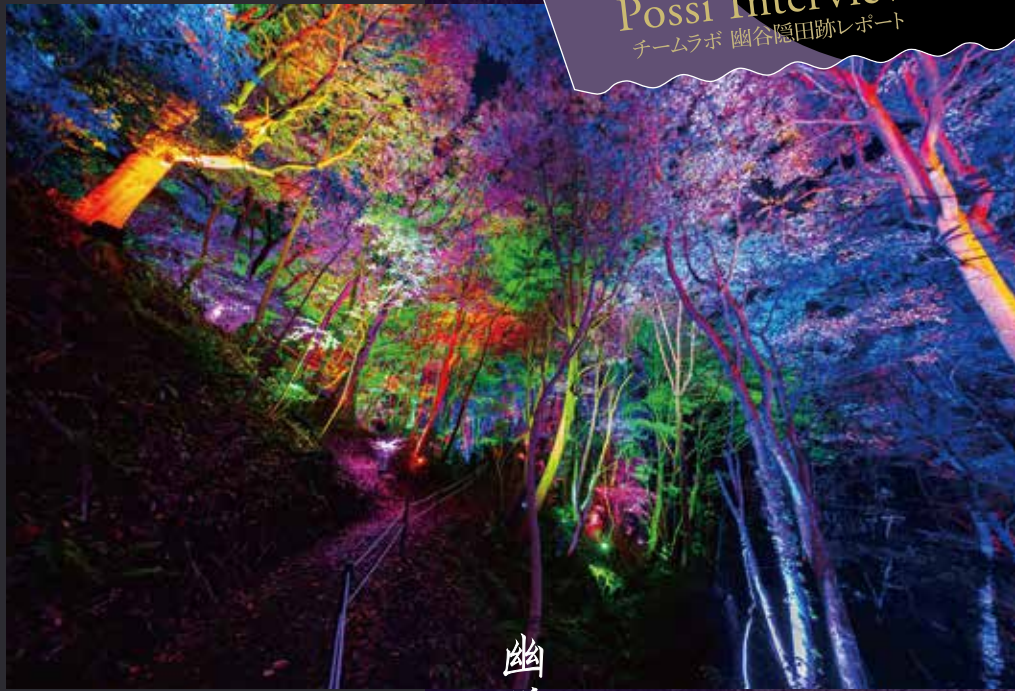


切り取られた 連続する生命

Cut Out Continuous Life

森を捉えた写真は、レンズによって森の光を切り取っている。本作は、光によって森をそのまま切り取っている。

チームラボ《切り取られた連続する生命》© チームラボ

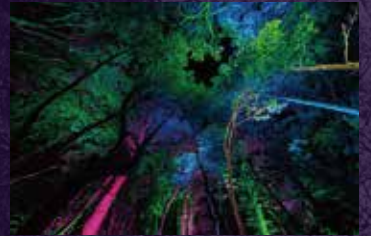


木々、人々や動物が近くを通ると光を輝かせ音色を響かせる。周辺の木々も次々に呼応し、光を輝かせ音色を響かせていく。木々の奥から光が押し寄せてくれば、向こうの方に人がいる、もしくは動物がいることを意味しているそう。人々は、同じ空間にいる他の人々の存在や動物、環境を普段より意識するだろう。

チームラボ《幽谷の呼応する森》© チームラボ

幽谷の呼応する森

Resonating Secret Valley and Forest



約1キロの森の中のミュージアムですが、ほぼ半分の道程にさしかかると、アツプダウンのある山歩きになります。周囲を見渡すと《幽谷の呼応する森》の変幻に心を奪われます。木々を染める色の変化が次々と巡りはじめ、自然と光と人が織りなす無限の幻想世界に没入していきます。鮮やかな色彩のゾーンを抜けると、放射状に光があつまり、視界がそこだけ明るく切り取られて、空間に吸い込まれていく感覚に。《切り取られた連続する生命》は現世と未知の世界をつなぐ、「扉の



ようにも感じます。歩く人のペースによって竹林に流れる音楽も変化する《幽谷の竹林》。竹の葉の繊細なカタチが森の間に映えて幽玄世界を堪能できます。宙を生き物のように素早く動き回る赤い光の痕跡の作品《連続する生命の痕跡》は長く連続した時間のなかで、あらゆるものがつながり合う痕跡を表現したものです。さらに進み坂道を下り深い森を通り抜けたとき、忽然と視界が広がり《隠田跡》が現れます。ゆるやかな段々が奥まで広がる棚田跡には地下水が豊かに引かれ、水面から無数の燈明が浮かび、森の木々が様々な色に照らされ棚田跡を包み込んでいます。音と光と人の動きと風がお互いに連関し合ってひとつの空間を作り出す。夢幻的な景色に桃源郷にいるような不思議な心地よさを覚えます。さらに実際に水の中に入って、「歩先を光る道に誘導されながら燈明が変化する幻想的な体験も楽しめます。自然の中で長い連続した時間を認識できる空間、チームラボの「デジタルイズドネーチャー」をぜひ体験してみてください。



隠田跡の水鏡の道

Water Mirror Path through the Hidden Rice Terraces

隠田跡の水の中の道。

チームラボ《隠田跡の水鏡の道》© チームラボ



幽谷の竹林

Bamboo Forest of the Secret Valley

自分の歩く速度やペースによって音楽体験が変わっていく。

「チームラボ 幽谷隠田跡」会場にて撮影、チームラボ《幽谷の竹林》



チームラボ 工藤 岳さん

次回予告

VOL40号では「五浦 幽谷隠田跡温泉」(いづらゆうこくおんでんあとおんせん)をレポートします。

「チームラボ 幽谷隠田跡」と一体となった宿泊施設「五浦 幽谷隠田跡温泉」では、源泉掛け流しの温泉やグランピングを楽しむことができ、さらにコテージでは特別な部屋でのアート体験が待っています。乞うご期待ください。



チームラボ

アートコレクティブ。2001年から活動を開始。集団の創造によって、アート、サイエンス、テクノロジー、そして自然界の交差点を模索している国際的な学際的集団。アーティスト、プログラマー、エンジニア、CG アニメーター、数学者、建築家など、様々な分野のスペシャリストから構成されている。

チームラボ 幽谷隠田跡 (ゆうこくおんでんあと)

茨城県北茨城市大津町 2132
[時間帯] 18:00-22:00 ※時間は季節等により変更あり。詳細は公式ウェブサイトへ
[休館日] 第1火
[料 金] 大人(高校生以上) 2200円 / 小・中学生 800円 / 未就学児 無料 / 障がい者割引 1100円
※事前日時指定予約制です ※現地での購入の場合、上記価格に+200円

公式ウェブサイト <https://www.teamlab.art/jp/e/izura/>

主催 株式会社 創 輝

チームラボ 工藤 岳さん
初めてここに来たときは、どこから入ったらいかもわからない状態でした。「落ちそうだな」「きれいだな」「これはマザーツリー? タブノキかな」などと話しながら時計回りに山道を歩いていったのですが、急な坂道を下りていったらいきなり視界が開けて棚田跡が見えたことにも感動しました。僕たち、個人的にも棚田がすごく好きで。本来人工的なもの

ですが、自然を感じるんです。山があつて、川があつて、海があつて、エネルギーの循環がある。連続性の一部に間借りをしているような状態で成り立っている。美しい、自然だなと感じる感覚は面白い。そこに未来のヒントがあるんじゃないかと勝手に思っています。
まずは来て体験していただきたいです。森と一体となったとき、何か感じるものがあるのではないのでしょうか。

連続する生命の痕跡

Traces of Continuous Life

我々が知覚できないほど、果てしなく長く連続した時間の中で、全てがつながり連続し合う、その痕跡。

チームラボ《連続する生命の痕跡》© チームラボ



Hidden Traces of Rice Terraces

隠田跡

海沿いの山の深い森を抜けたと谷であった。アシに覆われた湿地となった天水棚田の跡を見つけた。それは秘密の棚田のようであった。そして、自然と人の営みが連続する長い時間の存在に思いを馳せながら、森に隠された棚田跡を作品にしようと思った。

チームラボ《隠田跡》© チームラボ



チームラボの作品は、

ビクトリア国立美術館 (メルボルン)、ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館 (シドニー)、南オーストラリア州立美術館 (アデレード)、オーストラリア国立美術館 (キャンベラ)、アモス・レックス (ヘルシンキ)、ロサンゼルス現代美術館 (ロサンゼルス)、サンフランシスコ・アジア美術館 (サンフランシスコ)、ボルサン・コンテンポラリー・アート・コレクション (イスタンブール)、アジア・ソサエティ (ニューヨーク) などに収蔵されている。

五浦 幽谷隠田跡温泉 (いづらゆうこくおんでんあとおんせん)

茨城県北茨城市大津町 2132
TEL. 0293-24-5251
[時間帯] 10:00-17:00
湧き出る湯に浸かり、この地この海のもの食べ、森の谷に泊まり、チームラボの作品の中に入って没入感を体験できる日常を楽しんでいただけます。

公式ウェブサイト <https://izurahotspring.com/>



チームラボアーキテツク 代表 河田 将吾さん

作品だけでなく、温泉やコテージなど宿泊部分の設計を手がけたチームラボアーキテツク代表の河田将吾さんは、「作品の中に入りながら日常の体験を行えるような工夫をしています。温泉も作品の一部として、日常の中に入り込みそこで少し長い時間を過ごしていただき、朝を迎えて1日を終える。そのような体験を楽しんでもらいたい。」と語ります。



PRESENT
読者プレゼント

— チームラボ 幽谷隠田跡 —

「ペアチケット」を2組様(1組2名様)合計4名様へプレゼント! ▶ 詳しくは10ページへ